笹原中学校第２学年　学年通信　第２０号　　令和元年１２月２０日（金）発行

# すてっぷ　あっぷ

# ２学期の行事を振り返って

遅くなりましたが、２学期の行事のふり返りとして、１０月２５日（金）に行われた第３７回文化祭を振り返っての作文を紹介します。

**合唱コンクール　2年生の部**

| クラス | 曲名 | 指揮者 | 伴奏者 |
|---|---|---|---|
| １組 | 春に | | |
| ２組 | 手紙 | | |
| ３組 | あなたへ | | |
| ４組 | 道 | | |

**合唱コンクールの結果**

**金賞　２組　銀賞　４組**

**「文化祭」**

僕たち１組の合唱曲は「春に」という曲です。思春期の僕たちを表しています。指揮者と伴奏者が決まり、練習が始まりました。僕が指揮者、埴岡さんが伴奏者でした。初めは、指揮を見ずにへんな方向を向いていたり、のばすところをのばしていない人が多く、まとまるのにものすごく時間がかかりました。だんだんまとまりだしたのは、本番の１週間前でした。そして、一カ所よくわからない箇所があり、本番前日の夜にやっとできるようになりました。

そして、本番が始まりました。２年生の初めは１組でした。指揮台に立つと足が震えていました。曲が始まると、最初は少し間違えてしまいました。途中から挽回しないといけないと思いがんばりながら歌は終わりました。入賞はできなかったけれど、楽しかったしいい思い出になったと思いました。これからは次に待ち受けているテストに向けてしっかりと取り組みたいです。

（１組）

**「文化祭を終えて」**

文化祭の練習が始まる。僕は昔から歌うのが苦手でいつも音楽がゆううつだった。でも、クラスの皆はやる気を出してがんばっているし、学年委員の僕がやる気を出さないのはダメだと思った。それから僕は苦手ながらも頑張ることに決めた。最初、声量も小さく迫力も無いという感じの合唱でした。練習を重ねるにつれ、皆が自信を持ち、声を出し合い「あっ」と思うような歌声になっていった。

いよいよリハーサル。トップバッターで皆、緊張しているようだった。歌い始めから自分達のベストの歌声にはならず、リハーサルはあまり納得のいく結果にはならなかった。その後は皆の意欲が高まり「よし！やるぞ」という感じだった。

当日、もう少しで合唱コンクール。皆で円陣を組んで、本番をむかえた。僕たちの「春に」が始まった。最初アクシデントがあったけれど、最後まで歌いきることができた。結果は３位か４位、僕たちの目指した金賞には届かなかった。すごく悔しかった。でも、達成感はあった。

文化祭の後に学年委員のインタビューをしていて、クラスの仲間と協力する大切さを学んだ等の意見があり、「たしかになぁ」と思った。団結力は文化祭の前と後では格段に上がっている。だか

ら、このまま１２月１３日の校外学習では、目標である「煌外楽修」を成功させたいです。

（１組）

「合唱コンクールを終えて」

練習が始まった頃は、何もかもグダグダで正直、「こんなにぐちゃぐちゃで本番成功できるんかな」と心の中では思っていました。でも、練習を重ねるごとに皆がアドバイスし合ったり、励まし合ったりとお互いのことをちゃんと見ながら練習するようになりました。「１日で急に上手くなったな！」とか「これやったら結構いい感じかも！」と思い始めていました。

そして、いよいよ迎えた当日本番は、テンポが少し速まってしまったけれど、まあまあいい感じで歌えました。でもほかのクラスもハモリがきれいにできていたし、声の音量も大きくて、結果発表がとても不安でした。

しかし、結果はなんと金賞でした。２年２組が呼ばれた瞬間びっくりしました。私たちのクラスは初めの方はとてもグダグダだったけれど、見事金賞をとれたのはクラスの皆で団結、協力しあい、努力を積み重ねたからではないかなと思いました。

交歓音楽会ではとてもいい経験をすることができました。私は初めて行ったけれど、動きや声の出し方など各校の個性があるのだとわかりました。この時は、緊張してテンポがすごく速くなってしまって失敗したけれど、「演奏よかったよ」と言ってくれ、歌は一生懸命歌うことで相手に喜んでもらえると気づきました。これから、歌だけでなく他の面でも人に喜ばれるようになりたいです。

（２組）

「文化祭を振り返って」

僕たちの曲は「手紙」で知っていた曲だったので良かったです。練習が始まり、皆が知っている曲で、最初にしては声とかが出ていて歌詞はあまり覚えていなかったけれど、最初にしてはいいほうだなと思いました。パートがわかれて、文化祭が近くなり、音程もそろって男子の声もすごく出ていました。女子も結構声とか音程がそろうようになりました。

まずはリハーサルでいい演奏をしようと思いました。リハーサルの時、僕たちの番が来て歌っている時、笑ってしまいました。自分はパートリーダーなのに、笑っていたらクラスをまとめられないと反省しています。そこからは気持ちを変えて頑張りました。放課後練習では、指揮者が声かけをしてくれやりやすかったです。

本番の１週間前には女子がとてもうまくなっていてすごいなと思い、僕も頑張ろうと思いました。当日の練習では、前日よりもきれいに歌うことができました。２組の演奏が始まり、出だしはすごくよかったです。皆が緊張して、少し速くなってしまいました。「これは無理かな」と思っていて、結果発表の時がきました。金賞は…２組、思わず立って喜んでしまいました。

（２組）

「文化祭を振り返って」

合唱曲、「あなたへ」は昨年２年生が歌っていたとき、とても感動した曲だったので自分達が合唱できることになりうれしかった。このときは、まさか指揮者になるとは思っていなかったので成り行きでなったときには不安しかなかった。「あなたへ」はパートごとのかけあいがノンストップで続く曲で指揮もとても大変だと思った。

合唱練習の初日、クラスの雰囲気はものすごく悪かった。まだ、男女ともに歌詞や音程を覚えていなくて、男子はふざけて笑っていた。この様子を見て、金賞獲りたかったな、と諦めかけた。けれど、他のクラスの合唱をきいて負けたくないと思った。パートでの話し合いでは、皆が自分の意見を言い、たまに口論にもなるけれど、それは皆勝ちたいと思っているからだと思った。３組は声がきれいと言われていたので、自信も持てた。そこから少しずつだけれど、声も大きくなって音程もそろってきた。これはパートリーダーが中心となり、並び順を考えアドバイスをしてくれたからだと思うので感謝しかなかった。ありがとう。

当日練習では、出だしをたくさん練習した。本番はそのかいあってか、出だしから迫力があった。指揮者は練習からずっと歌う様子を前で見ることができるので、クラスの成長が一番わかると思う。だから、本番、皆が歌っている時とても感動した。伴奏もはじめてノーミスやったと言っていて、これは金賞だ！と思った。

結果は賞なし。悔しかったけれど、教室で皆が３組が一番よかったとか声が出ていたと言っていたのでクラスのベストが尽くせたのかなと思いました。

ベストを出せたのは、伴奏者、パートリーダー、ソプラノ、アルト、テナーの皆が協力して合唱したからだと思います。ありがとう。

（３組）

「文化祭」

僕達２年３組は「あなたへ」を合唱します。文化祭に向けて音楽の時間や放課後練習で一生懸命歌い、必死に練習をしました。でも、皆は音楽の時間は真剣にやるけれど、放課後練習は全然やってくれず、指揮と伴奏とパートリーダーが声かけをしても、聞かなかったり、文句を言う人がたくさんいて心配でした。けれど、何日かたって、皆がちゃんと歌ってくれて心が１つになったような感覚が僕にはありました。

リハーサルではどのクラスも上手すぎてびっくりしました。けれど、僕達も歌ったらどのクラスにも負けていないくらいの声の大きさと歌のうまさだと自分でも感じたし、他のクラスにも言われたので、その時は嬉しく感じました。それからも不完全なところを直したりしました。

そして、当日がやってきました。合唱コンクールが始まり、２年生の部がやってきました。僕の感想では３組金賞やなと思いました。給食を食べ、午後の部に入りました。そして結果発表。銀賞が４組、金賞が２組でした。悔しかったけれど、楽しく終われたのですごく良かったです。

（３組）

「困難の先に得られるもの」

私は１学期から音楽の授業で「道」をたくさん練習してきて、「去年は銀賞だったから、今年は絶対金賞をとりたい」という一心で張り切っていました。

でも二学期のある音楽の授業で、４組の皆から「指揮者」という役割を与えてもらいました。正直、この日まで歌う気満々で、指揮者なんて眼中になかった自分にとっては、なかなかハードルの高い仕事だと感じていました。でも、ここで引き下がったら絶対に後悔すると思い、引き受けることにしました。しかし、手の振り方もわからない状態でこのままでは４組の皆に迷惑がかかると思い、その日から空いている時間に指揮の練習を始めました。最初は全然わからなかったけれど、だんだんなんとか曲が終わるまで間違えずに指揮ができるようになり、あっという間に合唱練習が始まりました。

パート別の練習では、主に男子のパートに指示をすることになりました。練習中はパートリーダーと練習内容の打ち合わせ、時間の管理、全体の指示、指揮があり少し大変でした。けれど、やりがいを感じていました。もちろん当然全てがうまくいくわけではなく、悩むこともたくさんありました。そんな時、話を聞いてくださった先生や友達の存在があったからこそ、私は指揮者としての仕事ができていたと思います。

本番では、皆の声がよく出ていて、私は今までの合唱の中で一番の合唱だったと思いました。結果は銀賞だったけれど、じゅうぶんだと思いました。文化祭、合唱練習の中で、指揮者をやってみて大変なことがたくさんありました。でも、その大変なことを乗り越えることができた自分は、前より１UP できたのではないかと思います。指揮者という経験は私にとってとても大きな財産になりました。そして、そんな機会を与えてくれた４組の皆に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。　　（４組）

「４組の思い出の道」

「思い出が時間を止めた　今日の日を忘れるなと　見慣れた景色二度と並べない　思い出の道
この道で君と出会い　春が僕らを包んでた　愛と優しさ教えてくれたね　泣かないで歩こう」

これが４組の合唱曲、「道」だ。高音のところが特に難しかった。この曲の練習が始まったのは、１学期からだった。その頃、僕は「なんだこの曲絶対難しいやん」と思っていた。だが、その裏には期待感もあった。２年４組の皆で合唱ができる。そういう気持ちだった。そして徐々に練習がハードになっていった。体育大会が終わり、中間テストが終わり、２学期の最後となるイベント「文化祭」の合唱コンクールの練習がはじまった。放課後３０分間練習するというもの。ー授業が４５分になるから嬉しかったー

そして、僕はパートリーダーとなり、指揮者と共に色々考えて、練習を盛り上げていくことにした。そして、練習を重ねるたび、自分たちの奏でるハーモニーがきれいになっていき、顔も心もそろっていると感じられるようになった。ー男子は切り替えを頑張った、音楽って楽しいー

そして、迎えた本番。目の前には大量の観客。どくどくと心臓が高鳴っている。でも、自分たちが今まで創り上げてきた道は、緊張を吹き飛ばし観客の心を思い出の道に包み込める。そう思い、大きく口を開いた。

結果は銀賞だったけれど、もっと大きなものを残せたと思った。それはかけがえのない思い出だ。

（４組）